令和5年度シンポジウム
気候変動×生物多様性による豊かな地域づくり

# 商品の利用を通じて持続可能な社会の実現に貢献できる取り組み

THE GLOBAL GOALS
For Sustainable Development

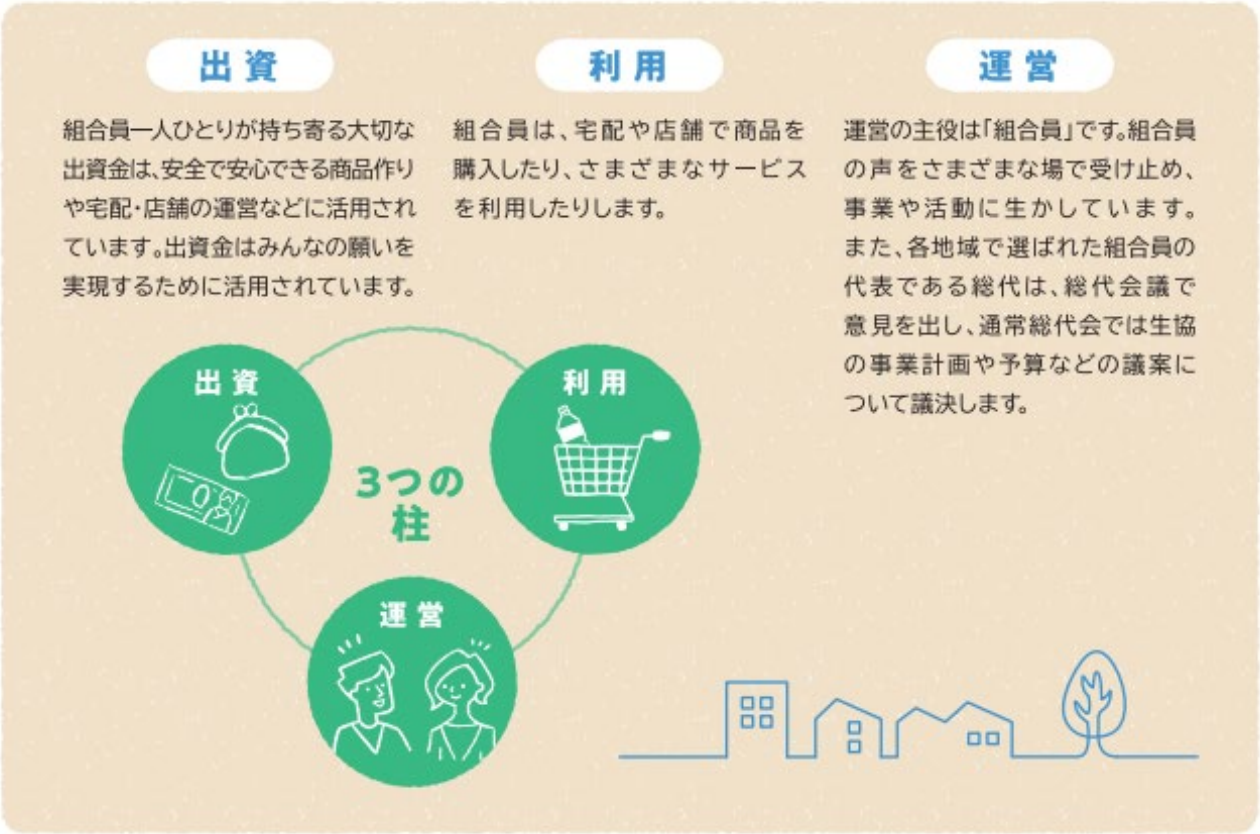
CO-OP コープデリ
コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

コープデリ連合会　サステナビリティ推進部
安　光晴（やす　みつはる）
2024年2月29日

# コープ（生協）について

コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

・コープ（生協）は、消費者一人ひとりが、暮らしのさまざまな願いを協同して実現するために、事業や活動を通じて助け合う消費者の自発的な組織です。
・組合員は「出資金」を出し、「利用」し、事業や活動の「運営」に参加・参画します。



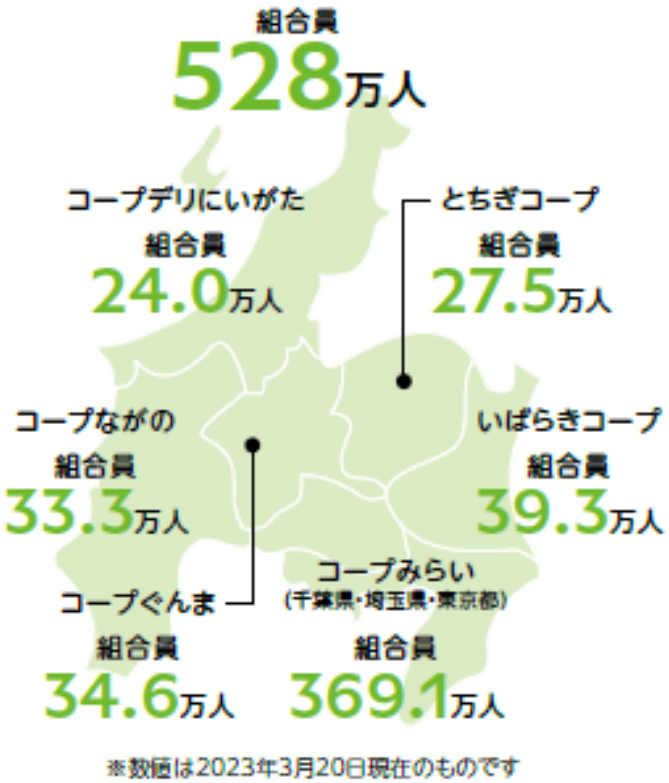
# コープデリグループ

コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

## 〈関東・信越１都7県６つの生協〉

会員合計の総事業高6106.4億円、組合員数528.1万人
コープみらい（東京・千葉・埼玉＝369.1万人）、いばらきコープ（39.3万人）、
とちぎコープ（27.5万人）、コープぐんま（34.6万人）、コープながの（33.3万人）、
コープデリにいがた（24.0万人）、
生産、物流、保険、サービスなどの子会社含めてグループを形成

宅配（180万世帯が利用）、店舗（146店舗）、福祉、共済、電気などの事業と環境、福祉、子ども・子育て支援、平和・国際貢献、消費者の権利拡大などの社会的な活動を行っています。




グループ共通の理念
「COOPともにはぐぐむくらしと未来」

2025年ビジョン
「食卓を笑顔に地域を豊かに」

# 目次

コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。


０１　美ら島応援もずくプロジェクト
０２　佐渡トキ応援お米プロジェクト
０３　お米育ち豚プロジェクト
０４　ハッピーミルクプロジェクト
０５　プロジェクトの実績

# 美ら島応援もずくプロジェクト

コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

伊平屋島は沖縄本島の北側に位置する人口約1,200名の小さな島です。周辺は珊瑚礁に囲まれ、砂浜はウミガメの貴重な産卵地です。しかし、砂浜には大量のゴミが流れ着き、そのゴミがウミガメの上陸を阻みます。

「美ら島応援もずくプロジェクト」は、伊平屋島産のもずくを食べることで島の美しい自然を守る取り組みです。もずくの売り上げの一部を「コープデリ美ら島応援基金」に寄付し、漂着ゴミの運搬・処理や砂浜の浄化など、自然環境の保護活動に役立てています。

## 「伊平屋島とコープデリのあゆみ」

- 1978年　村でもずく養殖の事業化開始
- 1987年　取引スタート
- 2010年「コープネット（現コープデリ）美ら島応援基金」設立
  「美ら島応援もずくプロジェクト」開始
  職員や組合員（消費者）が毎年島を訪問

## 「コープデリ美ら島応援基金」

伊平屋島の自然環境と生物多様性保護や産業育成のための条約に基づき、もずくの利用（販売）を通じて自然環境保護の取り組みを応援する目的で2010年に基金を創設しました。

【調印団体】
沖縄県伊平屋村、伊平屋村漁業協同組合、㈱海産物のきむらや、日本生協連、コープデリ連合会

2010年　調印式

組合員向けの広報紙や宅配の商品カタログで、海洋ゴミ問題やプロジェクトの目的やストーリを意識した商品のおすすめをしています。

組合員広報紙

宅配のカタログ

職員や組合員が島を訪れ、もずくの生産、加工など学習や、生産者との交流を行っています

もずくの漁場・収穫を視察

10周年時に届けた組合員からの応援メッセージパネル（伊平屋村役場にて）

# 佐渡トキ応援お米プロジェクト

コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

トキはかつて、ほぼ日本全土で普通に見ることができる鳥でした。しかし、明治時代に狩猟が解禁され、米作りに農薬が使用されるようになると餌となる生きものが消えトキは絶滅しました。佐渡では、再びトキが住める豊かな自然環境を取り戻そうと、さまざまな取り組みを行っています。

そんな佐渡を、お米を食べることで応援する取り組みが「佐渡トキ応援お米プロジェクト」です。佐渡コシヒカリの売り上げの一部を「佐渡トキ環境整備基金」に寄付し、いきものを育む環境活動に活用されています。

## 「佐渡米とコープデリのあゆみ」

- 1994年「CO-OP産直新潟佐渡コシヒカリ」の取り扱い開始
- 2008年　60羽のトキを佐渡に定着させることを目標に野外へ放鳥
- 2010年「佐渡トキ野生復帰」を目的とした連携協定」締結
  「佐渡トキ応援お米プロジェクト」開始

## 「佐渡トキ野生復帰」を目的とした連携に関する協定

CO-OP産直新潟佐渡コシヒカリおよび加工品の販売、佐渡市トキ環境整備基金平への寄付、組合員、役職員の産地視察および交流を通じて、人とトキが共生する佐渡の実現を目指したものです。

【調印団体】
新潟県佐渡市、佐渡農業協同組合、日本生協連、コープデリにいがた、コープデリ連合会

2010年　調印式

宅配の商品カタログでは、商品だけでなく生産者の声やストーリーなどプロジェクトの説明を行っています。

職員や消費者が島を訪れ、生きものと共生する米作りの体験や学習など交流を行なっています。

江・ビオトープの清掃
生き物と共生する米づくりを体験

生き物調査の体験
江・ビオトープに生息する生き物の調査し多様性を実感

# お米育ち豚プロジェクト

コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

お米は食文化の柱として輸入に頼らず消費をまかなうことができる作物ですが、日本人一人当たりの米消費量はこの50年間で約半分に減りました。田んぼには、洪水や土砂崩れを防いだり、生きもののすみかになるなど自然環境を守る役割があります。
「お米育ち豚プロジェクト」は、休耕田になりかねない田んぼで飼料用の米を作り、米を飼料の一部として与え豚を育てます。その豚肉を食べることで、米の生産を守り日本の食料自給力向上に貢献することをめざす取り組みです。

「お米育ち豚プロジェクトのあゆみ」

- 2007年　飼料用米の取り組み検討開始
- 2008年　プロジェクトスタート
  飼料用米栽培開始、豚のエサに10%混ぜる
- 2009年～お米育ち豚供給（販売）開始
  その後、卵・鶏・牛肉や加工品など品目の拡大
- 2017年～飼料用米配合率を15%に引き上げ

「飼料用米による産直豚生産」調印式

【調印団体】
花巻農業協同組合、お米生産者、飼料会社、豚生産者、コープデリ連合会等７団体

宅配の商品カタログ

## フードチェーン全体で取り組みを推進

飼料用米の生産からの豚肉の加工までの学習や体験を通じ交流を行なっています

飼料米稲刈り体験

食肉加工処理工場での
ウインナー作り体験

# ハッピーミルクプロジェクト

コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

世界には５歳の誕生日を迎えられない子どもたちが500万人います 。そのうち半数以上は栄養不良が原因です。中でもアフリカでは、干ばつなどの自然災害や紛争などの問題により、多くの子どもたちが命の危険にさらされています。「ハッピーミルクプロジェクト」は、コープの牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、アフリカの子どもたちや母親の栄養改善を応援する取り組みです。

「ハッピーミルクプロジェクト支援国の変遷」

- 2008年　モザンビーク共和国
- 2014年　シエラネオネ共和国
- 2020年　コートジボワール共和国

なぜ牛乳で支援？？

- 多くの組合員が利用
- 牛乳は栄養が豊富なイメージ
- パッケージに大きな広報面がある

牛乳パッケージでの広報

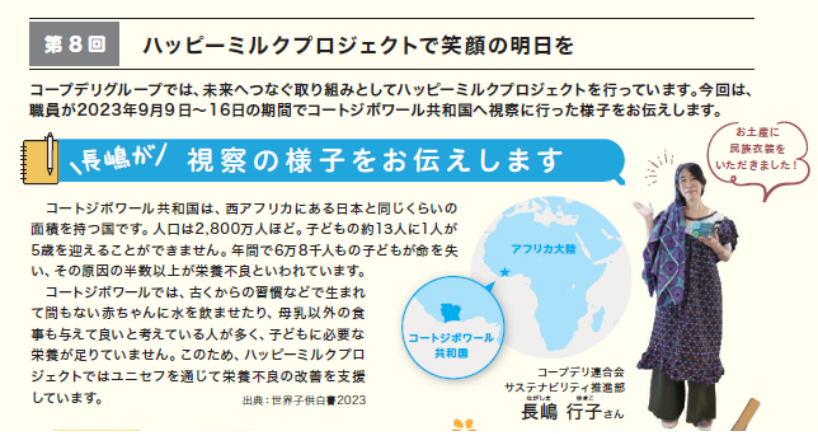
栄養改善プログラム

1. 栄養不良の早期発見・治療
   子どもの栄養不良の治療ができる施設の増設栄養不良の子どもには　補助用品を供給
2. 健診・治療を担う職員の育成
   保健センター職員の研修や保健員を指導する管理者を育成
3. 母親たちに栄養・育児の知識の普及し、学び合うグループづくり

## 支援国を見て、感じて、伝えることで取り組みを推進

栄養状態のスクリーニング

母乳育児についての教育



第８回　ハッピーミルクプロジェクトで笑顔の明日を

コープデリグループでは、未来へつなぐ取り組みとしてハッピーミルクプロジェクトを行っています。今回は、職員が2023年9月9日～16日の期間でコートジボワール共和国へ視察に行った様子をお伝えします。

長嶋が！ 視察の様子をお伝えします

コートジボワール共和国は、西アフリカにある日本と同じくらいの面積を持つ国です。人口は2,800万人ほど。子どもの約13人に1人が5歳を迎えることができません。年間で6万8千人もの子どもが命を失い、その原因の半数以上が栄養不良といわれています。

コートジボワールでは、古くからの習慣などで生まれて間もない赤ちゃんに水を飲ませたり、母乳以外の食事も与えて良いと考えている人が多く、子どもに必要な栄養が足りていません。このため、ハッピーミルクプロジェクトではユニセフを通じて栄養不良の改善を支援しています。

出典：世界子供白書2023



コープデリ連合会
サステナビリティ推進部
長嶋（ながしま） 行子（ゆきこ）さん

組合員広報紙

# プロジェクトの実績

コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

## 美ら島応援もずくプロジェクト

| 寄付の実績 | |
|---|---|
| 2011年 | 1,330,252円 |
| 2012年 | 642,940円 |
| 2013年 | 1,311,033円 |
| 2014年 | 1,610,219円 |
| 2015年 | 1,741,930円 |
| 2016年 | 1,862,345円 |
| 2017年 | 1,723,602円 |
| 2018年 | 1,712,901円 |
| 2019年 | 1,249,563円 |
| 2020年 | 1,173,190円 |
| 2021年 | 1,377,477円 |
| 2022年 | 1,548,758円 |
| 2023年 | 1,742,056円 |
| 寄付額累計 | 19,026,266円 |

今年は、4年ぶりに組合員と役職員の代表が伊平屋島にてビーチクリーン活動を実施しました。

## お米育ち豚プロジェクト

お米育ち豚を育てる産地は、6県61カ所の農場に広がりました。飼料用米の活用は、豚だけでなく牛や鶏へ広がっています。その総重量は、5,018トン。田んぼの面積に換算すると836ヘクタールに達します。

| | |
|---|---|
| 岩手県 | ㈱いわちくグループ<br>JA全農青森本部グループ<br>㈱フリーデングループ |
| 茨城県 | 茨城県中央食肉公社グループ<br>協同農産㈱グループ<br>全農千葉県本部グループ<br>日清丸紅飼料㈱グループ |
| 栃木県 | 栃木フレンド養豚研究会グループ |
| 群馬県 | 下仁田ミート㈱グループ |
| 千葉県 | ㈱産直ポーク千葉グループ<br>全農千葉県本部グループ<br>東の匠SPF豚研究会 |
| 秋田県 | 太平洋ブリーティング㈱グループ |

| | 飼料用米重量 | 田んぼ面積 |
|---|---|---|
| 豚肉 | 3,727.2トン | 621.2ha |
| 牛肉 | 118.6トン | 19.8ha |
| 鶏肉 | 86.2トン | 14.4ha |
| 鶏卵 | 1,085.5トン | 180.9ha |
| 計 | 5,017.5トン | 836.3ha |

2022年度　※田んぼ面積は、1haあたりの収穫量6トンで算出

## 佐渡トキ応援お米プロジェクト

| 寄付の実績 | |
|---|---|
| 2010年 | 1,563,028円 |
| 2011年 | 2,400,000円 |
| 2012年 | 2,089,894円 |
| 2013年 | 2,154,003円 |
| 2014年 | 2,400,000円 |
| 2015年 | 2,415,546円 |
| 2016年 | 1,805,473円 |
| 2017年 | 2,710,671円 |
| 2018年 | 2,708,842円 |
| 2019年 | 2,672,752円 |
| 2020年 | 3,237,683円 |
| 2021年 | 3,433,878円 |
| 2022年 | 3,149,822円 |
| 2023年 | 3,530,503円 |
| 寄付額累計 | 36,272,095円 |

トキの野生復帰は順調に進んでいます。2008年、60羽のトキを佐渡に定着させることを目標に、野外への放鳥がスタート。2023年12月末現在、推定532羽の野生のトキが定着しています。

2022年度の寄付贈呈と稲刈り交流

## ハッピーミルクプロジェクト

| 寄付の実績 | |
|---|---|
| 2008年度 | 24,745,535円 |
| 2009年度 | 23,792,726円 |
| 2010年度 | 22,392,155円 |
| 2011年度 | 17,847,573円 |
| 2012年度 | 17,569,818円 |
| 2013年度 | 18,031,394円 |
| 2014年度 | 14,555,486円 |
| 2015年度 | 15,340,679円 |
| 2016年度 | 14,780,425円 |
| 2017年度 | 15,898,972円 |
| 2018年度 | 14,729,127円 |
| 2019年度 | 14,033,520円 |
| 2020年度 | 21,608,502円 |
| 2021年度 | 16,798,775円 |
| 2022年度 | 15,647,089円 |
| 寄付額累計 | 2億6,777万1,776円 |

### ●栄養改善プログラムと到達点

**１．モザンビーク共和国（２００８～）**

ミレニアム開発目標４「５歳児未満の死亡率を3分の２に減少させる」を達成　全ての保健施設で栄養不良改善プログラムを行い、遠くて通えない人に循環保健員の仕組みを整えました。

**２．シエラレオネ共和国（２０１４～）**

保健員の指導管理者１３名、保健員１２１名の研修・訓練を行い、現地での人材育成に取り組みました。

また、コノ県にある村のうち６４％で「母親グループが結成され、紙芝居や歌で離乳食の知識や検査の知識を伝えています。

4つのプロジェクト
▶特設サイト

各プロジェクトの詳細は、動画でご覧ください。

## 美ら島応援もずくプロジェクト

## お米育ち豚プロジェクト

## 佐渡トキ応援お米プロジェクト

## ハッピーミルクプロジェクト

co-op

コープデリ